「福島大学教職実践研究」の発刊にあたって

このたび,「福島大学教職実践研究」の発刊を迎えることになりました。福島大学の教職大学院は平成29年度に設立され，これまでに多くの修了生を輩出してきました。教職大学院では「理論と実践の往還」を合い言葉に，実践に基づいた理論研究を進めています。言うまでもなく，教育は「理論だけ」でも「実践だけ」でも成り立ちません。理論と実践が結びつくところに初めて教育は成立します。これを深めていくのが「実践研究」です。では,「実践報告」と「実践研究」はどのように違うのでしょうか？

「報告」は，英語で言えばレポートにあたります。「このようなことをしました」と言うことをまとめれば,「報告」にはなります。もちろん，実践報告にも重要な意味があります。それは「実践を言語化すること」です。なぜこのような実践を行ったのか，この実践によって子どもは何を学んだのか，子どもはどう変わったのか，得てして曖昧なまま日々の授業を流してしまいがちになりますが，それらを一つ一つ見直し，記録に基づいて記述していくことには大きな意味があります。そしてこれを行うと,「優れた実践」と「そうでない実践」の違いは一目瞭然となります。成功のうれしさ，あるいは失敗の悔しさを糧に，新しい実践へと進む力を得ることができます。

これに対し,「研究」は英語で言えばリサーチにあたります。リサーチと言うと「調査」ととらえる方もいらっしゃるかもしれませんが,「調査」だけではなく,「探究」あるいは「追究」という意味もあります。調査や実験（もちろん「実践」も含まれます）によってデータを収集し，それを基に考察・探究すること，これが研究です。そしてそれを意義づけるためには，これまでの研究や実践を渉猟し，批判的な検討を加えて独自の視点を築きあげなければなりません。「研究」によって, 初めて教育実践は「科学化」されることになるのです。また，このようにしてみていくと,「優れた教育実践」のみが「実践研究」へと昇華していくことができる，とも言えましょう。

このような「研究」を進めるために，大学・大学院は大変重要な場です。そして，その成果は公表され，多くの方に読まれ，受け入れられ，あるいは批判されることを通して，初めて意味を持つことになります。本誌は，そのような研究発表の場の一つとして生まれました。「福島大学教職実践研究」が福島大学に集う学徒・研究者のみならず，福島県，さらにはより広い地域の方々の教育実践研究の場となることを期待します。

2022年3月

福島大学　人間発達文化研究科長
初　澤　敏　生